

## 2—1 言語学

### 研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野は、対象言語・方法論を問わず、広く言語の全体像を把握するよう努めてきた。本専攻分野の現員は、教授2、准教授1であり、比較言語学、コーパス言語学、統語論等の分野で個人研究を推進し、教育に携わっているが、平成17年度採択された魅力ある大学院教育イニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」にも参画した。また、特に、小泉准教授は、科学技術振興機構「脳科学と教育」（タイプⅡ）研究開発プロジェクトのとして精力的に研究活動を展開し、学内および学外の研究者・研究室と共同して非侵襲的脳機能計測器を用いた文処理・文理解の研究および言語獲得の研究に力を入れている。これらの活動の概要は、随時、研究室のホームページ (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/ling/>) を通じて一般に公開している。在籍する学生についても、従来は理論言語学・個別言語学を研究テーマとするものが多数を占めていたが、これに加えてここ数年で脳機能計測や言語獲得を研究テーマとするものが増えてきた。ただし、本研究室にはこうした研究分野の蓄積が未だ乏しいこともあり、研究遂行に必要な知識・技術を習得するために、東北地区以外で開催される勉強会・研究会にも足を運ぶ学生も多い。全体の傾向として、学位取得者はここ数年コンスタントに出ているが、大学院生の論文発表はむらが見られる。

### I 組織

#### 1 教員数（2008年4月現在）

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：千種眞一、後藤斉

准教授：小泉政利

#### 2 在学生数（2008年4月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博 士 前期	大学院博 士 後期	大学院 研究生	科目等履修 生
25	0	7	6	1	0

### 3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
04	6	2	2	0
05	2	1	1	1
06	5	2	4	1
07	5	0	1	1
08	-	-	-	1
計	18	5	8	4

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	0	0	0
05	1	0	1
06	1	1	2
07	1	0	1
08	1	-	1
計	4	1	5

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

金情浩、2005年度、『日本語他動詞文の文処理に関する研究－L1・L2話者を対象として－』

審査委員：教授・千種眞一（主査）、教授・後藤斉、教授・斎藤倫明、准教授・小泉政利

宋殷美、2006年、『日本語における感情の複合動詞の研究』

審査委員：教授・後藤斉（主査）、教授・千種眞一、教授・斎藤倫明、准教授・小泉政利

神山孝夫、2006年度、『印欧祖語母音組織の研究－研究史要説と試論－』

審査委員：教授・千種眞一（主査）、教授・後藤斉、教授・後藤敏文

石村広、2007年、『中国語の結果構文に関する研究－VR構文の意味構造とヴォイス－』

審査委員：教授・千種眞一（主査）、教授・後藤斉、教授・花登正宏、准教授・小泉政利

菊池清一郎、2008年、『領域指定制約と強勢による形態音韻的非対称性の研究—スペイン語・カタロニア語・ガリシア語の形態音韻現象について—』

審査委員：教授・後藤斉（主査）、教授・千種眞一、教授・金子義明、准教授・小泉政利

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	1	8	1	0	10
05	3	3	0	0	6
06	2	4	0	0	6
07	1	2	1	1	5
08	0	1	1	0	2
計	7	18	3	1	29

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	3	8	4	0	15
05	3	4	7	0	14
06	1	1	1	1	4
07	6	1	1	0	8
08	2	1	0	0	3
計	15	15	13	1	44

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

Keiko Murasugi, Tomoko Hashimoto, and Sachiko Kato "On the Acquisition of Causatives in Japanese" *BUCLD 28 Proceedings Supplement*. 2004.

河内 健志 「姉妹包含関係による二次述語と外置要素の飽和」 『上越英語研究』 5, 2004.

Seiichiro Kikuchi "The emergence of the unmarked in Galician plural formation" 『音韻

研究』 8, 2005.

Seiichiro Kikuchi "Relativised contiguity and word-final deletion in Catalan" 『音韻研究』 8, 2005.

Naoki Kimura, Jungho Kim and Masatoshi Koizumi "Sentence Processing and Phrase Structural Determinacy of Aspect in Japanese" *Lexicon Forum* 1, 2005.

Fukumitsu, Yuichiro "A Psycholinguistic Study on Dative Verb Sentences with Scrambled Word Order in Japanese" 『言語科学論集』 第 9 号、2005.

宋 殷美 「多義語「見ー」を前項とする感情の複合動詞」 『大韓日語日文學會日語日文學』 28, 2005.

Seiichiro Kikuchi "On Galician definite article allomorphy" 『音韻研究』 9、2006.

酒井 由美、岩田 一樹、ホルヘ・リエラ、万 小紅、横山 悟、下田 由輝、川島 隆太、吉本 啓、小泉 正利 「事象関連電位で見る名詞と助数詞の照合プロセスー意味的处理か文法的处理かー」 『認知科学』 13、2006.

Koji Suda and Shigenori Wakabayashi "The acquisition of pronominal case-marking by Japanese learners of English" *Second Language Research* 23、2007.

Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Noriaki Yusa, and Hiroko Hagiwara "The development of Metalinguistic Awareness in Japanese Children: Effects of Early English Education" 『信学技報』 2007.

須田 孝司 「新入生の英語能力」 『仙台電波工業高等専門学校研究紀要』 37, 2008.

Naoki Kimura "Raising-to-Object in Japanese and the Role of Topic/Nominative Case Markers in the Cognitive Processing," IEICE Technical Report 108, 2008.

## (2) 口頭発表

Masahiko Nose "Word order and the essive case X-kent positions in Hungarian" FUSAC 2004 Conference by Congress of the Humanities and Social Sciences 2004 年 5 月 ウィニペグ.

Jungho KIM, Masatoshi Koizumi, Naho Ikuta, Yuichiro Fukumitsu, Yuko Akitsuki, Kazuki Iwata, Hyeonjeong Jeong, Naoki Miura, Hideyuki Okamoto, Yuko Sassa, Jobu Watanabe, Satoru Yokoyama, Noriaki Yusa, Shigeru Sato, Kaoru Horie, Ryuta Kawashima "An fMRI study of Scrambling Effects on Sentence Comprehension" 10th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping 2004 年 6 月 13-17 日 ブダペスト.

宋 殷美 「類義語の複合を中心として」 日語日文学会 2004 年度夏季国際学術発表大会 2004 年 6 月 19 日.

Jungho KIM, Masatoshi Koizumi, Naoki Kimura, Jobu Watanabe, Satoru Yokoyama, Naho Ikuta, Shinya Uchida, Yuko Akitsuki, Kazuki Iwata, Hyeonjeong Jeong, Naoki Miura, Yuko Sassa, Noriaki Yusa, Shigeru Sato, Kaoru Horie, Ryuta Kawashima. "Processing of Scrambled Ditransitive Constructions: An fMRI study" 11th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping 2005 年 6 月 13-16 日 トロント.

金 情浩・小泉 政利・木村 直樹 「日本語他動詞文におけるスクランプリングの影響： fMRI 研究」 韓国日本語学会 2005 年 9 月 24 日 Kyung Hee University.

宋 殷美 「多義語「見ー」を前項とする感情の複合動詞」 韓国日本学聯合会 第 3 回国際学術大会 2005 年 7 月 7-9 日.

Yumi Sakai, Yuichiro Fukumitsu, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi An ERP study of the classifier system in Japanese: Syntactic or Semantic? 20th Annual CUNY Conference on Human Sentence Processing 2007 年 3 月 29-31 日 La Jolla, California, USA.

梁 賢娥 広告談話における 1 人称の出現とその理由に関する考察 ポライトネス理論と広告談話の談話場面を中心に 韓国日本言語文化学会 2007 年度春季国大学術発表大会 2007 年 5 月 12 日 サンミョン大学.

Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Noriaki Yusa, and Hiroko Hagiwara Metalinguistic Awareness in Young Japanese Children: Effects of Early Non-native Language Education 13th Annual Conference on Architecture and Mechanisms for Language Processing 2007 年 8 月 24-27 日 トウルク.

Natsuko Katsura, Takuya Goro, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi(2007) "Effects of early Exposure to English on the development of metalinguistic awareness in Japanese children" 言語科学会第 9 回年次国際大会

Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Noriaki Yusa, and Hiroko Hagiwara "The development of Metalinguistic Awareness in Japanese Children: Effects of Early English Education" MAPLL2007, 2007 年 7 月 14-15 日, 広島大学

桂奈津子、小泉政利、郷路拓也、田村真一、遊佐典昭 (2007) 「幼児のメタ言語認識における早期英語教育の影響」 第 4 回日本子ども学会

Shin-Ichi Tamura, Natsuko Katsura, Yoshiaki Kaneko and Masatoshi Koizumi

Word-Order Preferences in Japanese Children's Ditransitives: The Effect of Verb Meanings Boston University Conference on Language Development 32 2007 年 11 月 2-4 日 Boston University.

Takuya Goro, Annie Gagliardi, Akira Omaki, Natsuko Katsura, Sinichi Tamura, Noriaki Yusa and Collin Phillips Freedom of scope and conservatism in the development of Japanese Boston University Conference on Language Development 32 2007 年 11 月 2-4 日 Boston University.

Shin-Ichi Tamura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Natsuko Katsura, Yoshiaki Kaneko, Jiro Gyoba, Noriaki Yusa and Hiroko Hagiwara Semantics in Children's Production of Ditransitives Conference on Ditransitive Constructions 2007 年 11 月 23-25 日 Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology.

河内 健志・高橋 栄作 「日本人 EFL 学習者における格助詞の影響 -他動詞文を中心に-」 第 38 回中部地区英語教育学会 (2008 年 6 月 29 日)

河内 健志・高橋 栄作 「日本語の女子が日本字英語学習者に与える影響」- 韓国日本學聯合會 第 6 回國際學術大會 (2008 年 7 月 11 日)

李 在濬 「日・韓親疎関係に対する言語使用の差異—大学生感謝表現の比較—」 大韓日語日文学会 第 7 回日本語教育世界大会 2008 年 7 月 13 日 釜山外国語大学.

### **3 大学院生・学部生等の受賞状況**

なし。

### **4 日本学術振興会研究員採択状況**

2005 年度 PD 1 名

2006 年度 PD 1 名 (外国人特別研究員)

### **5 留学・留学生受け入れ**

#### **5-1 大学院生・学部学生等の留学数**

2006 年度 大学院 1 名 ワシントン大学 (アメリカ合衆国)

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	3	0	3
05	2	0	2
06	3	2	5
07	4	2	6
08	3	0	3
計	15	4	19

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	0	2	2
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
計	0	3	3

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

宋殷美（韓国外国語大学非常勤講師、2007年度）

石村広（二松学舎大学文学部中国文学科准教授、2008年度）

福光優一郎（新居沢工業高等専門学校講師、2008年度）

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

3名（高校教員、日本語学校教師 2004年度、ジャーナリスト 2006年度）

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『東北大学 言語学論集』 年刊

『東北大学大学院文学研究科 言語科学論集』年刊（言語科学専攻として発行）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004 年

言語学講演会 酒井邦嘉（東京大学） 「脳から文法処理をさぐる」

言語学講演会 Lars-Gunnar Larsson（スウェーデン・ウプサラ大学）”Language Contacts around the Baltic Sea”.

2005 年

言語学講演会 中山峰治（オハイオ州立大学）

東北大学大学院文学研究科シンポジウム『認知科学から見た外国語教育』

2006 年

言語学講演会 松木一永（University of Western Ontario）“The role of animacy in Japanese relative clause production”.

言語学講演会 小川七世（東北大学大学院医学系研究科）「言語聴覚士を知っていますか？：＜臨床と研究＞2つの立場からの紹介」

2007 年

言語学講演会 Sudha Arunachalam（University of Pennsylvania）“Early verb representations: Learning meets parsing”.

言語学講演会 Edson T. Miyamoto(筑波大学) “Left-corner parsing of sentence-initial NPs in Japanese”.

2008 年

言語学講演会 芝垣亮介(University of London) “Affected Roles and Linking in Mandarin Resultatives”.

言語学講演会 中尾千鶴(University of Maryland) “Negation, Fragments and Focus Movement”.

国際ワークショップ Mental Architecture for Processing and Learning of Language (MAPLL), 2008 年 8 月 8 日～9 日、宮城県鬼首、主催（電子情報通信学会「思考と言語研究会」と共同開催）.

CBL Seminar、2008 年 8 月 10 日、宮城県鬼首、広島大学「育む・学ぶ」ことばの脳科学プロジェクト研究センターと共催.



## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

小泉准教授と大学院生らが、広島大学教育学部の酒井弘准教授と協力して、毎年、海外から講師を招聘して認知脳科学の研究会（セミナー）を開催している。世界最先端の研究を行っている国内外の研究者と交流し研究情報の交換をするとともに、大学院生や若手研究者に英語で研究発表をし英語で議論する練習をする場を提供することも目的の一つとしており、そのため、例年、大学院生にセミナー参加費用の一部を補助し、参加しやすい環境を提供している。

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

現在の教員の主たる研究の関心は、比較言語学、コーパス言語学、理論言語学・言語認知脳科学と多様であるため、専攻分野として統一的な活動はしにくい、相互補完的な関心の広がりの中にむしろ専攻分野としての活力があると考えている。現在、本専攻分野においては准教授、助教各 1 名が欠員であるが、現員において可能な限りカバーし、研究と教育の広がりと深さを確保すべく努めている。

とりわけ、小泉准教授は新しい分野である言語認知脳科学の開拓に積極的に取り組み、学内および学外の研究者・研究室と共同して fMRI や脳波計などの非侵襲的脳機能計測器を用いた文処理・文理解の研究および言語獲得の研究に力を入れており、その成果は国内ではもちろん、国際的にも高く評価されている。また、後藤教授が整備しているオンラインデータベースは、人文科学および言語学分野の信頼できる情報源として定評あるもので、国内外から広く利用されている。

本専攻分野では従来から図書や専門雑誌の充実につとめてきており、音声分析装置等の機器類も早くから備えてきた。近年には脳波形、光トポグラフィ装置等の設備を設置し、実験室を充実させて、研究に活用している。しかし、予算の制約から、一部の雑誌については購読を取りやめざるをえない状況になっている。

大学院学生では、従来は理論言語学や個別言語学など伝統的な分野を専門とする者が多かったが、近年は脳機能計測や言語獲得を研究テーマとする者が増えてきた。この分野は学際的な性質をもっているため、そのような学生に対しては可能な限り他研究科や他機関の研究者・研究室との交流を持つよう指導しており、学生からも自発的な活動も散見されるようになってきた。また、魅力ある大学院教育イニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」への参画は、本専攻分野の大学院生にとってアジア全体に視野を広げる機会となった。学位取得者は、ここ数年コンスタントに出ている。それ以外にも、本研究室では毎年『東北大学 言語学論集』および国語学研究室・日本語教育学研究室と共同して『東北大学大学院文学研究科 言語科学論集』

を毎年発行している。両論集とも大学院生が主な執筆者となり、学内・外の研究室・研究機関に配布しており、自身の研究を定期的にまとめ上げる機会を提供できているものと考えている。ただし、残念ながら大学院の入学者・進学者は数として多いとはいえ、大学院生の論文発表数も伸び悩んでおり、今後の研究活動の活性化のためには課題である。

### Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

千種眞一「アルメニア語・ゴート語における条件文の統辞法」.『東北大学言語学論集』14,(2005), pp. 3-34.

千種眞一「アルメニア語・ゴート語における疑問文の統辞法」.『類型学研究』1,(2005), pp. 83-104.

千種眞一「常用漢字の認知文字論的考察—認知情報単位の類型と分布—」.『類型学研究』第2号,(2008), pp. 141-183.

後藤 斉「文法化—ロマンス言語学と一般言語学」『ロマンス語研究』39, (2006), pp. 1-9.

後藤 斉「コーパスを活用した日本語の研究」『韓国日語日文学会 2006 年度夏季国際学術大会発表論文要旨集』,(2006), pp. 170-173.

後藤 斉「コーパス言語学と日本語研究」『日本語科学』,22(2007).

後藤 斉「言語学のための文献解題」野間秀樹編『韓国語教育論講座』(くろしお出版),(2008),607-625

Koizumi, Masatoshi, and Katsuo Tamaoka. “Cognitive Processing of Japanese Sentences with Ditransitive Verbs”. *Gengo Kenkyu* 125 (Journal of the Linguistic Society of Japan), pp. 173-190, March 2004.

Nasukawa Kuniya, and Masatoshi Koizumi. “The acquisition of voicing contrasts in Japanese infants”. *Tohoku Studies in Linguistics* 13, pp. 1-12, May 2004.

Isobe, Miwa, Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Kuniya Nasukawa, Yumi Sakai, Koji Sugisaki, and Noriaki Yusa. “The Syntax of Ditransitives in Japanese: A Preliminary Report from Acquisition”. In Yukio Otsu (ed.) *The Proceedings of the Fifth Tokyo Conference on Psycholinguistics*, pp. 163-182. Hituzi Shobo Publishing Company. November 2004.

Kimura, Naoki, Jung-ho Kim, and Masatoshi Koizumi. “Sentence Processing and

- Phrase Structural Determinacy of Aspect in Japanese”. *Lexicon Forum* 1, pp. 1-29. March 2005.
- Tamaoka, Katsuo, Hiromu Sakai, Jun-ichi Kawahara, Yayoi Miyaoka, Hyunjung Lim, and Masatoshi Koizumi. “Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions?” *Journal of Psycholinguistic Research*, 34(3), pp. 273-324, May 2005.
- Koizumi, Masatoshi. “Syntactic structure of ditransitive constructions in Japanese: Behavioral and imaging studies”. In Y. Otsu (ed.) *The Proceedings of the Sixth Tokyo Conference on Psycholinguistics*, pp. 1-25.. Hituzi Shobo Publishing Company. November 2005.
- Tamaoka, Katsuo, and Masatoshi Koizumi. “Issues on the scrambling effects in the processing of Japanese sentences: Reply to Miyamoto and Nakamura (2005) regarding the experimental study by Koizumi & Tamaoka (2004)”. *Gengo Kenkyu* 129 (*Journal of the Linguistic Society of Japan*), pp. 181-226, March 2006.
- 柴田寛、杉山磨哉、鈴木美穂、金情浩、行場次朗、小泉政利 「日本語節内かき混ぜ文の痕跡位置周辺における処理過程の検討」、『認知科学』 13(3), 301-315, 2006.
- 酒井由美、岩田一樹、ホルヘリエラ、万小紅、横山悟、下田由輝、川島隆太、吉本啓、小泉政利 「事象関連電位で見る名詞と助数詞の照合プロセス」、『認知科学』 13, 443-454, 2006.
- Koizumi, Masatoshi. “The split VP hypothesis”. In R. Freidin and H. Lasnik (eds.) *Syntax: Critical Concepts in Linguistics*, pp. 244-273. Routledge, September, 2006.
- 小泉政利、玉岡賀津雄 「文解析実験による日本語副詞類の基本語順の判定」『認知科学』 13, 392-403, 2007.
- 金情浩、小泉政利 「日本語 L2 学習者によるかき混ぜ文理解のメカニズム—日本語上級者（韓国人・中国人）を対象として—」、『日本語学研究』 18、95-111, 2007.
- 金情浩、曹永湖、小泉政利 「日本語能力が文理解に及ぼす影響—中国語母語話者の日本語学習者の場合—」、『日語日文学研究』 63、157-172, 2007
- 金情浩、曹永湖、小泉政利 「学習レベルによる日本語他動詞文の理解度調査—韓国語母語話者の日本語学習者の場合—」、『日本語文学』 35、97-114, 2007.
- Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Noriaki Yusa, and Hiroko

- Hagiwara. "The development of Metalinguistic Awareness in Japanese Children: Effects of Early English Education." 『信学技報』 107, pp. 103-104, 2007.
- Masatoshi Koizumi, Naoki Kimura, Jungho Kim "Syntactic Positions of Arguments in Japanese Clause Structures: A Psycholinguistic Perspective," *Enterprise in the Cognitive Science of Language*. Hituzi Syobo Publishing Company, 481-493, 2008.
- 神原利宗・横山悟・生田奈穂・ジョン-ヒョンジョン・高橋慶・関口敦・宮本正夫・高橋大厚・小泉政利・吉本啓・堀江薫・佐藤滋・川島隆太. 日本語の脳内における統語処理と語彙意味処理の fMRI 研究. 『日本認知科学会第 24 回大会発表論文集』 pp. 160-165, 2007.
- Shin-Ichi Tamura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Natsuko Katsura, Yoshiaki Kaneko, Noriaki Yusa, and Hiroko Hagiwara. Word-order preferences for the ni-phrase and the o-phrase in Japanese children's production of ditransitive sentences. *Explorations in English* 21: 91-108. 2007.
- Masatoshi Koizumi, Naoki Kimura, Jungho Kim Syntactic Positions of Arguments in Japanese Clause Structures: A Psycholinguistic Perspective. *Enterprise in the Cognitive Science of Language*. Hituzi Syobo Publishing Company. pp. 481-493. 2008.
- Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Takuya Gouro, Shin-ichi Tamura, Noriaki Yusa, and Hiroko Hagiwara (2008) Effects of Early Non-Native Language Exposure: Metalinguistic Awareness in Young Japanese Children 『電子情報通信学会技術研究報告（思考と言語研究会）』 vol.108(184), pp.79-81.
- 今野晃嗣・丸山俊・日高聡太・田中章宏・行場次朗・小泉政利・萩原裕子. (2008) 「英語活動経験が英語音素対聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響—NIRS による検討—」 『電子情報通信学会技術研究報告（思考と言語研究会）』 Vol.108(184), pp.45-48.
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 (2008) 「幼児期における母語意味処理の発達的变化と非母語活動の影響—ERP を用いた縦断的検討—」 『電子情報通信学会技術研究報告（思考と言語研究会）』 vol.108(184), pp49-54
- 丸山俊・今野晃嗣・日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 (2008) 「英語活動経験が物語聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響—NIRS による検討—」 『電子情報通信学会技術研究報告（思考

と言語研究会)』, Vol.108(184), pp.41-44.

Masatoshi Koizumi (2008) Toward a cognitive neuroscience of language. *Journal of Language Sciences* 15: 239-266.

小泉政利 (印刷中)日本語二重目的語動詞の概念構造と統語構造. 由本陽子ほか (編)『語彙の意味と文法』くろしお出版 (印刷中 2009年2月出版予定)

Masatoshi Koizumi (In press) Nominative object. Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito (Eds) *Oxford Handbook of Japanese Linguistics*. Oxford University Press.

Jungho Kim, Masatoshi Koizumi, Naho Ikuta, Yuichiro Fukumitsu, Naoki Kimura, Kazuki Iwata, Jobu Watanabe, Satoru Yokoyama, Shigeru Sato, Kaoru Horie, Ryuta Kawashima (In press) Scrambling effects on the processing of Japanese sentences: An fMRI study. *Journal of Neurolinguistics*.

## 1-2 著書・編著

千種眞一編『食に見る世界の文化 人文社会科学講演シリーズ II』 東北大学出版会, 2007.

エスペラント日本語辞典編集委員会編 (編集副主幹 後藤斉)『エスペラント日本語辞典』 財団法人日本エスペラント学会, 2006.

後藤斉『エスペラントを育てた人々』創栄出版,(2008).

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

千種眞一 「言語学、屈折語、膠着語、孤立語、ドイツ語」 (項目執筆) 飛田義文他編『日本語学研究事典』明治書院、2007年..

後藤 斉「言語学 オン ザ WEB 第1回 e博言学」『月刊言語』第33巻(2004)1月号, pp.90-91.

後藤 斉「言語学 オン ザ WEB 第7回 テキスト・ツール」『月刊言語』第33巻(2004)7月号, pp.76-77.

後藤 斉「情報検索を楽しもう」、「言語分析の方法」中村捷編『人文科学ハンドブック』, 東北大学出版会, 2005. pp.53-60, 124-126.

GOTOO Hitosi “La Vortaro”. 『エスペラント』,74(6),(2006), pp. 24-25,

後藤 斉「待望の『エスペラント日本語辞典』刊行!」.『エスペラント』,74(8),(2006), pp. 12-13,

GOTOO Hitosi “La okcitana lingvo” 『エスペラント』,74(10),(2006), pp. 22-23,

- 後藤 斉「言語学史、フランス語」(項目執筆).飛田義文他編『日本語学研究事典』 明治書院、2007年.
- 後藤 斉「コンピュータによる言語とテキストの分析」『フランス語学研究』,41,(2007), pp. 90-93.
- 後藤 斉「言語学のための文献解題」.野間秀樹編『韓国語教育論講座第4巻』、くろしお出版、2007年.
- 後藤 斉「エスペラント」(項目執筆).樺山紘一他編『歴史学事典 第15巻 コミュニケーション』弘文堂、2007年.
- 後藤 斉「オンラインデータベース「国内言語学関連研究機関 WWW ページリスト」」(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>)、「国内人文系研究機関 WWW ページリスト」(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>)
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(1) 語根配列」.『エスペラント』,76(1),(2008),22-23.
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(2) 主見出し語とそのランク」.『エスペラント』,76(2),(2008),24-25.
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(3) 語義」.『エスペラント』,76(3),(2008),18-19.
- 後藤 斉 「COM の有用性の例証」"cahier"(日本フランス語フランス文学会 )01 (mars 2008).
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(4) 用例」.『エスペラント』,76(4),(2008),21-22.
- 後藤 斉 「「あいうえお」の言語学」.阿子島香編『ことばの魅力とその世界』、東北大学出版会,(2008),1-49.
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(5) 動詞型」.『エスペラント』,76(5),(2008),16-17.
- 後藤 斉 「寄付金つき切手の生みの親 土井英一」.『考えるということ』,(3),(2008),29-33.
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(6) 造語法」.『エスペラント』,76(6),(2008),17-18.
- 後藤 斉 「エスペラント」.樺山紘一責任編集『歴史学事典 15 コミュニケーション』,弘文堂 (2008),83-85.
- 後藤 斉 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(7) 相互参照」.『エスペラント』,76(7),(2008),6-7.

後藤 齊 「エスペラント語」.石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典 ヨーロッパ編』,三省堂,(2008),433-444.

後藤 齊 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(8) エスペラント語法」.『エスペラント』,76(10),(2008),

後藤 齊 「『エスペラント日本語辞典』の使い方(9) 品詞」.『エスペラント』,76(11),(2008),

小泉政利 「目で観ることばの脳内処理」、中村捷（編）『人文科学ハンドブック』、東北大学出版会、 pp. 180-183, 2005 年 3 月.

#### 1-4 口頭発表

千種眞一「文字の類型的分類と日本語の書記体系」. 類型学研究会. 2005 年 4 月 16 日.

千種眞一「印欧語における人称標示のメカニズムとプロセス」. 類型学研究会. 2008.

後藤 齊「コーパスに基づく言語研究の現在」麗澤大学言語研究センター第 1 回シンポジウム. (2004 年 1 月、麗澤大学)

後藤 齊「文法化—一般言語学とロマンス言語学」日本ロマンス語学会第 43 回大会(2005 年 5 月、大阪女子短期大学).

後藤 齊「文学・言語テキストのコーパス分析 - フランス語・英語・日本語」日本フランス語学会シンポジウム(2006 年 5 月、慶應義塾大学).

後藤 齊「コーパスを活用した日本語の研究」韓国日語日文学会 2006 年度夏季国際学術大会(2006 年 6 月、韓国清州大学校).

GOTOO Hitosi “La Esperanta leksikografio: precipe rilate al la Esperanto-Japana

Vortaro” La 30a Esperantologia Konferenco (2007 年 8 月、パシフィコ横浜)

後藤 齊「COM の有用性の例証」日本フランス語フランス文学会 2007 年度秋季大会ワークショップ「中世研究における電子テキストの現状と将来性—中世南仏語文学データベース(COM)刊行に寄せて」(2007 年 11 月 10 日、関西大学)

小泉政利・玉岡賀津雄：「文解析実験による陳述、時、様態および結果の副詞の基本語順の判定」日本言語学会第 128 回大会 (2004 年 6 月 20 日、東京学芸大学)

Isobe, Miwa, Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Nasukawa Kuniya, Yumi Sakai, Sugisaki Koji, and Noriaki Yusa: “The syntax of ditransitives in Japanese: A

preliminary report from acquisition.” The Fifth Tokyo Conference on Psycholinguistics, March, 2004, Keio University.

福光優一郎・金情浩・小泉政利：「目で見る「与格目的語かき混ぜ文」の脳内処理」日本言語学会第128回大会（2004年6月20日、東京学芸大学）

Naoki, Kimura, Jungho Kim, and Masatoshi Koizumi: "Processing of Aspectual Adjuncts in Japanese" The Fourth International Forum on Brain, Language and Cognition: Cognition, Brain, and Typology: Toward a Synthesis. September 13, 2004, Tohoku University.

金情浩・福光優一郎・小泉政利：「fMRIからみた文理解時におけるスクランブリングの影響」第29回関西言語学会（2004年10月30日、京都外国語大学）

Ikuta, Naho, Jungho Kim, and Masatoshi Koizumi: "Brain activities related to the processing of Japanese Canonical and Scrambled sentences.” Tohoku-Cambridge Forum, June 11, University of Cambridge.

Koizumi, Masatoshi: "Syntactic Structure of Ditransitive Constructions in Japanese: Behavioral and Imaging Studies" (Invited Talk) . The Sixth Tokyo Conference on Psycholinguistics, March 18, 2005.

小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生：「文読解時間に与える統語構造と格助詞配列順序の影響－「ヲ格目的語動詞使役文」と「ニ格目的語動詞使役文」との比較－」日本言語学会第129回大会（2005年6月12日、富山大学）

Koizumi, Masatoshi "Factors Affecting Language Processing." (Invited Talk) Second international workshop on Evolutionary Cognitive Sciences "In Pursuit of Language-Brain Interactions: Language Acquisition, Sentence Processing, and Neurolinguistics". July 2-3, University of Tokyo.

柴田寛，杉山磨哉，鈴木美穂，金情浩，行場次朗，小泉政利「日本語短距離かき混ぜ文における間接プライミング効果の減衰特性」電子情報通信学会 思考と言語研究会（2005年7月9日、九州大学）

酒井由美，岩田一樹，ホルヘリエラ，万小紅，横山悟，下田由輝，川島隆太，吉本啓，小泉政利「日本語の名詞と助数詞の照合時に見られる脳活動－事象関連電位による研究－」電子情報通信学会 思考と言語研究会（2005年7月9日、九州大学）

Masatoshi Koizumi "Nominative Object." (Invited Talk) Workshop on Linguistic Theory and the Japanese Language, July 29, 2005, Harvard University.



横山悟，小泉政利，金情浩，遊佐典昭，吉本啓，川島隆太「日本語文処理の即時性について：意味役割の再分析処理より」日本認知科学会第 22 回大会（2005 年 7 月 29 日、京都大学）

金情浩，木村直樹，小泉政利「日本語他動詞文におけるスクランプリングの影響：fMRI 研究」韓国日本語学会（2005 年 9 月 24 日、慶熙大学）

小泉政利「ことばの認知脳科学」（招待講演）東義大学日語日文学科招待講演会（2005 年 9 月 26 日、東義大学）

小泉政利：「「ことばの謎」に迫る：どのようなアプローチを採るべきか？」（招待講演）日本言語学会第 131 回大会（2005 年 11 月 19 日、広島大学）

Koizumi, Masatoshi“Grammatical parameters and sentence processing.” CBL International Workshop on Cognitive/Neurological Basis for Linguistic Variation, November 19, 2005, Hiroshima University.

Masatoshi Koizumi & Katsuo Tamaoka. “Subject Positions in Japanese: A Behavioral Study.” CBL Seminar, August 10, 2006, Kure City, Japan.

金情浩・小泉政利 「日本語他動詞文の文処理に関する研究-日本語上級者（韓国人・中国人）を対象として-」、韓国日本語学会（第 14 回）、Dong-Kuk University, 2006.

小泉 政利 「統語理論と脳科学」（招待講演）言語研究と脳科学の未来、首都大学東京、2006 年 9 月 8 日

Masatoshi Koizumi. “The Processing of Japanese Ditransitive Sentences: Neural substrates for Implicit and Explicit Morpho-Syntactic Processing.” (Invited) International Symposium on Language, Mind and Brain, Akita University, October 10-12, 2006.

小泉政利 「副詞の語順と統語理論」（招待講演）同志社大学大学院文学研究科英文学・英語学専攻・大学院コロキアウム、2006 年 10 月 21 日、同志社大学

小泉 政利、玉岡賀津雄 「日本語の主語は動詞句内部に留まる場合がある：行動実験からの証拠」日本言語学会第 133 回大会 2006 年 11 月 18～19 日、札幌学院大学.

田村 真一、小泉 政利、郷路 拓也、桂 奈津子、金子 義明、遊佐 典昭。行場 次朗、萩原 裕子 「日本人幼児の二重目的語構文産出における「に」句と「を」句の語順選好」日本言語学会第 134 回大会、2007 年 6 月 16～17 日、麗澤大学.

Natsuko Katsura, Takuya Goro, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi Effects of early Exposure to English on the development of metalinguistic awareness in Japanese children.言語科学会第9回年次国際大会、2007年7月13日、宮城学院女子大学.

Masatoshi Koizumi “Cognitive Science of Scrambling,” (Invited) 2007 Summer Conference of the Korean Association of Language Sciences, Dongeui University, Pusan, Korea, August 23, 2007.

小泉政利 「文法機能と意味役割と格助詞の配列順序が文読解時の脳活動にどう影響するか？」（招待）日本心理学会第71回大会、2007年9月19日、東洋大学.

Shin-Ichi Tamura, Natsuko Katsura, Yoshiaki Kaneko, Masatoshi Koizumi.

“Word-order preferences in Japanese children's ditransitives: The effect of verb meanings.” Boston University Conference on Language Development, November 2-4, 2007, Boston University.

Shin-Ichi Tamura, Masatoshi Koizumi, Takuya Goro, Natsuko Katsura, Yoshiaki Kaneko, Jiro Gyoba, Noriaki Yusa, and Hiroko Hagiwara. “Semantics in Children’s Production of Ditransitives.” The Conference on Ditransitive Constructions. Leipzig, November 23-25 2007.

福光優一郎、金情浩、小泉政利「目で見ると『与格目的語かき混ぜ文』の脳内処理」日本言語学会第128回大会（2004年06月20-21日、東京学芸大学）.

福光優一郎、金情浩、小泉政利「fMRIからみた文理解時におけるスクランプリングの影響」第29回関西言語学会（2004年10月30日京都外国語大学）.

Yumi Sakai, Yuichiro Fukumitsu, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi., “An ERP study of the classifier system in Japanese: Syntactic or Semantic?”, 20th Annual CUNY Conference on Human Sentence Processing, March 29-31, 2007, La Jolla, California, USA.

鈴木結花、柴田寛、福光優一郎、小泉政利、行場次朗、萩原裕子「幼児と成人における意味逸脱文聴取時の事象関連電位」. 日本認知心理学会第5回大会. 2007年5月26-27日、京都大学.

Fukumitsu, Y., Suzuki, Y., Shibata, H., Koizumi, M., Gyoba, J. & Hagiwara, H. "Children's awareness of morpho-syntactic information: An auditory ERP study", 13th Architecture and Mechanism of Language Processing. August 24-27, 2007, University of Turku, Turku, Finland

Koizumi, M., Fukumitsu, Y., Sakai, Y., Yusa, N. & Fukuchi, K., "The processing of the agreement between a classifier and a noun: An ERP study", 13th Architecture and Mechanism of Language Processing. August 24-27, 2007, University of Turku, Turku, Finland

Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Koizumi, M., Gyoba, J. & Hagiwara, H., "An event-related potential study on semantic congruity during listening to Japanese sentences in children and adults", 13th Architecture and Mechanism of Language Processing. August 24-27, 2007, University of Turku, Turku, Finland

福光優一郎、鈴木結花、柴田寛、小泉政利、行場次朗、萩原裕子。「意味および統語処理に関する幼児と成人の事象関連電位の比較」。第4回子ども学会議。(2007年9月15-16日、慶應義塾大学三田キャンパス)。

鈴木結花、柴田寛、福光優一郎、小泉政利、行場次朗、萩原裕子。「幼児と成人における事象関連電位を用いた意味処理の比較」。第4回子ども学会議。(2007年9月15-16日、慶應義塾大学三田キャンパス)。

Masatoshi Koizumi and Katsuo Tamaoka (2008) Psycholinguistic Evidence for the VP-Internal Subject Position in Japanese. Fifth Workshop on Formal Altaic Linguistics, May 23-25 2008, SOAS, University of London.

小泉政利 (2008) (招待講演) 「副詞の語順」と「文の理解しやすさ」との関係。2008年6月10日、中南民族大学 (中国武漢)。

小泉政利 (2008) (招待講演) ことばの認知脳科学。2008年6月11日、華中師範大学 (中国武漢)。

小泉政利 (2008) (招待講演) 「副詞の語順」と「文の理解しやすさ」との関係。2008年6月13日、湖北大学 (中国武漢)。

今村怜・小泉政利 (2008) 文処理における情報構造と統語構造の交互作用について。日本言語学会 第136回大会、学習院大学、2008年6月21日。

Masatoshi Koizumi (2008) (Invited) Cognitive Neuroscience of the Double Object Construction in Japanese. 10th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences, July 12, 2008, University of Shizuoka.

Noriaki Yusa, Masatoshi Koizumi; Jungho Kim, Yumi Sakai; Naoki Kimura; Kaoru Horie; Shigeru Sato; Ryuta Kawashima, and Hiroko Hagiwara. (2008) A Neurological Index of Instructed SLA: Evidence from fMRI. 18th Annual Conference of the European Second Language Association, September 12, 2008, University of Provence, Aix-en Provence, France.

小泉政利 (2008) (招待講演) SEM (構造方程式モデリング) およびパス解析を使った日本語習得研究. 2008年12月20日、麗澤大学.

## 2 教員の受賞歴 (2004~2008年度)

2006年度

日本エスペラント学会小坂賞 (エスペラント日本語辞典編集委員会 (編集副主幹 後藤斉))

## IV 教員による競争的資金獲得 (2004~2008年度)

### (1) 科学研究費補助金

2004年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語・ゴート語比較統辞法の研究」. 900,000円

基盤研究(C)小泉政利 研究代表者「動詞の項構造、統語構造と基本語順に関する認知脳科学的研究」 1,000,000円

基盤研究(C) 小泉政利 研究分担者「動詞形態の認知処理過程を手がかりとした言語機構の構造の解明」 700,000円

2005年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語・ゴート語比較統辞法の研究」. 800,000円

萌芽研究 後藤斉 研究代表者「現代日本語電子化テキストの類型化とその利用上の問題点に関する基礎的研究」 500,000円

基盤研究(C) 小泉政利 研究代表者「動詞の項構造、統語構造と基本語順に関する認知脳科学的研究」 1,100,000円

基盤研究(B) 小泉政利 研究分担者「話し言葉の理解における複合語処理の認知神経機構の解明」 4,200,000円

基盤研究(C) 小泉政利 研究分担者「日本人英語学習者の脳内メカニズムに関する理論的・実証的研究」 1,200,000円

2006年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語・ゴート語比較統辞法の研究」 600,000円

萌芽研究 後藤斉 研究代表者「現代日本語電子化テキストの類型化とその利用上の問題点に関する基礎的研究」 400,000円

基盤研究(C) 小泉政利 研究代表者「動詞の項構造、統語構造と基本語順に関する認知脳科学的研究」 1,100,000 円

基盤研究 (B) 小泉政利 研究分担者「話し言葉の理解における複合語処理の認知神経機構の解明」

基盤研究(C) 小泉政利 研究分担者「日本人英語学習者の脳内メカニズムに関する理論的・実証的研究」

#### 2007 年度

基盤研究(B) 小泉政利 研究代表者「かき混ぜ文理解における文脈の影響の認知脳科学的研究」 7,300,000 円

基盤研究 (B) 小泉政利 研究分担者「話し言葉の理解における複合語処理の認知神経機構の解明」

基盤研究(C) 小泉政利 研究分担者「日本人英語学習者の脳内メカニズムに関する理論的・実証的研究」

若手研究(B) 福光優一郎 研究代表者 「事象関連電位を指標とした文処理における韻律情報の研究」 1,200,000 円

#### 2008 年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語新約聖書語彙の比較分析とシソーラスの作成」 1,100,000 円

基盤研究(A) 後藤斉 研究分担者「ロシア及びその周辺の少数言語のコーパスの構築と記述的・歴史的研究」 600,000 円

基盤研究(B) 小泉政利 研究代表者 「かき混ぜ文理解における文脈の影響の認知脳科学的研究」 3,700,000 円

特定領域研究 小泉政利 研究分担者 「生成文法理論に言語の社会性をリンクさせた第二言語獲得研究」 250,000 円

## (2) その他

#### 2004 年度

21 世紀 COE プログラム (人文社会科学) 言語・認知総合科学戦略的研究教育拠点 (東北大学) 小泉政利 事業推進担当者 118,600,000 円

独立法人 科学技術振興機構 受託研究費 小泉政利 研究代表者 「母語獲得過程の縦断的研究」 100,000 円

#### 2005 年度

21 世紀 COE プログラム (人文社会科学) 言語・認知総合科学戦略的研究教

育拠点（東北大学） 小泉政利 事業推進担当者 137,500,000 円  
独立法人 科学技術振興機構 受託研究費 小泉政利 研究代表者 「研究  
題目：母語獲得過程の縦断的研究」 4,108,000 円  
東北大学大学院文学研究科長裁量経費（CBL セミナー外国人講師招聘） 小  
泉政利（東北大学文学研究科認知脳科学研究会として） 400,000 円

#### 2006 年度

21 世紀 COE プログラム（人文社会科学）言語・認知総合科学戦略的研究教  
育拠点（東北大学） 小泉政利 事業推進担当者 123,200,000 円  
独立法人科学技術振興機構 受託研究費 小泉政利 研究代表者 「研究題  
目：母語獲得過程の縦断的研究」 4,433,000 円

#### 2007 年度

独立法人科学技術振興機構 受託研究費 小泉政利 研究代表者 「研究題  
目：母語獲得過程の縦断的研究」 2007 年度研究費額未定

#### 2008 年度

独立法人 科学技術振興機構 受託研究費 小泉政利 研究代表者 「研究  
題目：母語獲得過程の縦断的研究」 9,700,000 円

### V 教員による社会貢献（2004～2008 年度）

後藤 齊

2006 年 6 月 財団法人日本エスペラント学会「エスペラントの日」エスペラ  
ント運動百周年企画記念講演

2006 年 11 月 東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー第 4 期  
有備館講座「“あいうえお”の言語学」

2006 年度 文部科学省（国）科学研究費補助金審査部会特定領域研究専門委  
員会（日本語コーパス専門委員会）委員（主査）

小泉政利

2004 年度～ NPO 法人 脳の世紀推進会議 会員

2007 年 2 月 6 日～3 月 4 日 『東北大学総合学術博物館のすべて 企画展「脳  
のかたち 心のちず」』、仙台市科学館、における企画・展示に協力

### VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004～2008 年度）

後藤 齊

日本ロマンス語学会理事（2001 年度～現在）

日本言語学会広報委員 (2004年度～2007年度)

小泉政利

東北英文学会評議委員 (2001年度～2008年度)

日本言語学会大会運営委員 (2002年度～2005年度)

日本言語学会委員 (2006年度～)

## Ⅶ 教員の教育活動 (2008年度)

### (1) 学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

教授 千種眞一

教授 後藤 斉

1学期 言語解析学特論Ⅰ 言語学研究演習Ⅰ 言語解析学研究演習Ⅲ  
課題研究

2学期 言語解析学特論Ⅱ 言語学研究演習Ⅱ 言語解析学研究演習Ⅳ  
課題研究

准教授 小泉政利

1学期 言語学研究演習Ⅰ 言語解析学研究演習Ⅴ 課題研究 人文社会  
科学研究

2学期 言語学研究演習Ⅱ 言語解析学研究演習Ⅵ 課題研究 人文社会  
科学研究、人文社会科学総合

講師 角田太作 (非常勤講師・東京大学大学院)

集中講義 言語学特論Ⅲ

講師 上山あゆみ (非常勤講師・九州大学大学院)

集中講義 言語学特論Ⅰ

#### 2 学部授業担当

教授 千種眞一

教授 後藤 斉

1セメスター 英語原書講読入門

3セメスター 音声学

4セメスター 音声学

5セメスター 現代言語学演習 言語交流学各論 言語交流学演習

6セメスター 言語交流学演習 言語交流学各論 言語交流学演習

准教授 小泉政利

- 2 セメスター 英語原書講読入門
- 3 セメスター 現代言語学概論 現代言語学基礎講読
- 4 セメスター 現代言語学概論 現代言語学基礎講読
- 5 セメスター 現代言語学演習 言語交流学演習
- 6 セメスター 現代言語学演習 言語交流学演習

講師 角田太作（非常勤講師・東京大学大学院）

集中講義 現代言語学各論

講師 上山あゆみ（非常勤講師・九州大学大学院）

集中講義 現代言語学各論

### 3 共通科目・全学科目授業担当

教授 後藤 斉

- 1 セメスター 基礎ゼミ

准教授 小泉政利

- 1 セメスター 全学教育・展開科目・言語学
- 2 セメスター 全学教育・展開科目・言語学

### 2) 他大学への出講（2004～2008 年度）

千種眞一 教授

- 2004 年度 奥羽大学
- 2005 年度 奥羽大学
- 2006 年度 奥羽大学
- 2007 年度 宮城学院女子大学
- 2008 年度 宮城学院女子大学

後藤 斉 教授

- 2004 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
- 2005 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
- 2006 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
- 2007 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
- 2008 年度 東京外国語大学、宮城教育大学

小泉政利 准教授

- 2004 年度 東北学院大学、宮城学院女子大学、関西学院大学



2005 年度 東北学院大学、宮城学院女子大学  
2006 年度 東北学院大学、宮城学院女子大学  
2007 年度 東北学院大学、宮城学院女子大学、九州大学  
2008 年度 東北学院大学、宮城学院女子大学、東北文化学園大学